

一
般段
級

根^ねは土^{つち}際^{ぎわ}より二^{ふた}木^きにわかれて

岩^{いわ}沼^{ぬま}宿^{じゆく}。武^{たけ}隈^{くま}の松^{まつ}にこそ目^め覚^さる心^{こころ}地^ちはすれ。

笠^{かさ}立^{たて}嶋^{しま}はいづこそ月^{つき}のぬかり道^{みち}。
止^とま^まて右^{みぎ}折^をい

【奥の細道】

実方中将の墓のあるという笠島はどのあたりだろう。こんな五月雨ふりしきるぬかり道の中では、方向もはつきりしないのだ。武隈の松を前にして、目が覚めるような心持になった。根は土際で二つにわかれて、

